滋賀県立総合病院広報誌

FACE

2024
04
第18号

【特集】脳神経外科

脳神経外科手術の未来を、より安全に

経験豊かな信頼の医療チーム

カテーテル治療に使用する血管撮影装置

専門外来で高度な医療を身近な存在に

病気が見つかった時、かかりつけのクリニックなどで相談すると、「専門の先生に診察してもらいますか？」と提案されると思います。そんな時、「どこで相談したらいいのだろう」「遠くに診察を受けに行くのは不安だな」など、いろいろ心配ごとがあると思います。医療が高度になればなるほど専門性が高くなり、専門外のことについての相談が難しくなります。

当院では、専門外来で、高度な知識と経験をもったスタッフが診察させていただきます。

- ▶脳腫瘍外来
- ▶脳血管障害外来
- ▶カテーテル治療外来
- ▶難治性疼痛（脊髄電気刺激療法）外来

Pick up　難治性疼痛外来（脊髄電気刺激療法）

腰椎症で手術を受けたけれども痛みが続いている、脚の動脈硬化による痛みに困っているなど、お薬が効かないがんこな痛みに脊髄電気刺激療法が注目されています。背骨の中に、1mmくらいのリード電極を留置し、刺激装置（ペースメーカーと同じくらいの大きさです）を皮下に埋め込んで行います。まず試験的に電極を留置して刺激の効果を確かめます。効果があった場合に、装置の留置を行います。

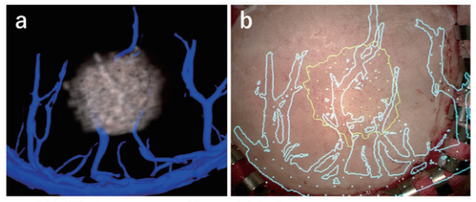
※Designed by kjpargeter-Freepik.com

技術の進歩で安全な手術が可能に

皆さんは、脳の病気にどのような印象を持っているでしょうか。「怖い病気」「手術を受けると後遺症が残る病気」などでしょうか。確かに、以前はそうだったかもしれません。しかし、診断や治療のための機器や技術は着実に進歩してきました。

車でドライブに行く時のことを想像してみてください。以前だと、初めて通る道の様子は全くわからず、助手席から地図を片手に一生懸命案内していました。しかし、現在では、カーナビが目的地まで誘導してくれます。インターネットで、これから通る道路の写真も簡単に見ることができます。脳神経外科の手術にも、同じような進歩が訪れました。以前は、CTやMRIの断面の画像を見て頭の中で実際にどう見えるか想像して治療にあたったのですが、正確性には限界がありました。現在は、CTやMRIの画像を術前にコンピュータで処理して、手術中にどのように見えるか立体的にシミュレーションすることができます。さらに、手術中は、手術ナビゲーションシステムで、どの部分を操作しているかリアルタイムで画面に表示することができます。手術の安全性が飛躍的に進歩しました。

手術ナビゲーションを使用して手術した症例



a. 術前CTで作成した血管と腫瘍の像
b. 術中、頭蓋骨を開く前に腫瘍や血管を顕微鏡の視野に投影

負担の少ない最適な治療を提案します

多くの患者さんは、頭部を切開して手術を受けることに抵抗感があると思います。切開せずに治療することができるのが、カテーテル治療で、脳血管の病気の治療に威力を発揮します。

それでは、全てカテーテルで治療するのが良いのでしょうか。答えは「ノー」です。切開する手術（開頭手術）とカテーテルでの手術には、それぞれ長所と短所があります。長所を最大限活かせるように、両方の治療に経験豊かな病院で治療を受けることが重要です。

当院は、開頭手術とカテーテル手術の両方を使い分け、最適な治療を提供することができます。どのような治療を受けるべきか迷った時は、気軽にご相談ください。

チームで取り組む脳卒中診療

脳卒中の治療は、時間との闘いです。１秒でも早く治療を開始することが、後遺症を軽くするために最も重要です。当院は、日本脳卒中学会から、一次脳卒中センターとして認定されており、脳神経内科の医師たちと協力して診療にあたっています。24時間365日、地域の皆さんの健康を守り続けています。

今号のFACE

院長補佐　兼
脳神経外科　科長

北条 雅人

京都大学医学博士
日本脳神経外科学会　専門医・指導医
日本脳卒中学会　専門医・指導医
日本脳卒中の外科学会　技術指導医
日本内分泌学会　脳神経外科領域専門医
兵庫県姫路市出身
2013年2月、当院に着任

支援型リーダーシップで脳の病気の克服をめざします

私が脳神経外科研修医として働き出した当時は、とにかく早く手術が上手になりたい、一人前の脳神経外科医になりたい、という一心で研修生活に没頭していました。ほとんど全ての時間を病院で過ごす生活でオフの時間などありませんでしたが、現在の若手医師にそのような研修生活を期待する人はいなくなりました。しかしながらいつまでも変わってはいけないことが一つだけあります。それは、いつでも患者さんを第一に考えるという臨床医としての基本的なスタンスです。オンオフのメリハリは大切ですが、休んでいる間も、どこかで患者さんのことを心の片隅にでもおいて過ごすという基本的なスタイルだけは、たとえ古臭いと言われても脳神経外科医として絶対に忘れてはいけないと信じています。

脳の病気を治していくのは個人の力だけでは不可能で、チームとして病気に立ち向かっていく必要があります。スタッフの目線に立って協力しながらチームをまとめ、力を高め、目標を達成していく支援型リーダーシップ(サーバントリーダーシップ)を理想とし、スタッフの指導にあたってきました。悩んだことも壁にぶちあたったことも何度もあり、このやり方が正解だったかどうかは分かりませんが、今後も、このスタイルで脳神経外科チームをまとめ、患者さんに寄り添って、脳の病気の克服に力を注いでいきたいと考えています。

Information　ドック実施中！(事前予約制)

滋賀県立総合病院が保有する高性能機器と専門医療スタッフを最大限に活用した、脳ドック・乳腺ドックを実施しています。
病気の予防・早期発見のため、ぜひ受診してください。

脳ドック　毎週水曜日 11:00～
(定員3名)
- 頭頸部 MRI 検査
- 結果説明

乳腺ドック　毎週木曜日 13:00～
(定員4名)
- マンモグラフィ検査
- 乳腺超音波検査
- 視触診

※結果は 1 週間以内に郵送

ご意見・ご感想募集

滋賀県立総合病院広報誌「FACE」へのご意見やご感想をぜひお寄せください。
お住まい、年齢、ご意見・ご感想を下記フォームよりお送りください。

滋賀県立総合病院の広報誌
「FACE」に関するアンケートフォーム

心のふれあいを大切にして安全で質の高い医療福祉を創生し提供する。

滋賀県立総合病院
Shiga General Hospital

〒524-8524 滋賀県守山市守山5丁目4番30号
TEL.077-582-5031(代)／0570-00-5031(ナビダイヤル)
[診療受付時間]午前8時30分～午前11時　※2科受診の患者様を除く
[休診日]土曜日・日曜日、祝祭日/年末年始(12/29～1/3)
https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/index.html

病院HP
滋賀県立総合病院

FACE　滋賀県立総合病院広報誌

発行：滋賀県立総合病院広報委員会(事務局総務課)
発行日：2024年4月

バックナンバーもご覧いただけます